

鶴宮高校 社会科FW・活動通信 Vol.40(2025. 10月)

社会科同好会編③ 映画『cocoon』鑑賞＆沖縄料理をつくる会

2025年10月4日(土)午後、調理室をお借りして、生徒8名+社会科教員3名で、沖縄料理を作り、夏にNHKで放送されたアニメ映画『cocoon-ある夏の少女たち-』(沖縄戦がモチーフ)を鑑賞しました。翌月11月の「戦後・被爆80年 高校生平和のつどい」で、ひめゆり学徒に関する分科会の司会を担当するため、その事前学習でもありました。部員以外で関心を持った生徒も参加しました。



ラードと小麦粉で作るちんすこう、タコライス、にんじんしりしりを手分けして作りました。タコライスはタコスをもとに戦後の沖縄で誕生したメニュー。



以下、参加した生徒の感想の一部を紹介します。

◆とてもおいしかったし、自分たちで作る新鮮さがあった。映画は、周りの人がどんどんいなくなっていくのに一人ひとり悲しむ時間もなくて、辛いことが続く展開が残酷だった。人によって考えることは違うし、そこで自分の気持ちを言えるようになる主人公の成長が面白かった。最後にサンに攻撃するのを止めたアメリカの男の子もたくさんつらい経験をしていると思う。

◆すっごくおいしかった！映画は、Tiktokの切

- り抜きでしか見たことがなかったけど、最初から最後までちゃんと見ると泣けました。
- ◆タコライスがおいしかったです。楽しかった。映画で、人が撃たれたときに「血」ではなくて「花」が出るのが、まだ現実を受け入れられない感じでつらかった。
- ◆映画は「血」が「花びら」に変わっていて、見やすいように工夫がされていた。まゆが撃たれたシーンだけ血が映っていて、まゆのおまじないが切れてしまったのかな？と思いました。
- ◆とてもおいしかった。家でも作りたいと思った。映画は見てみたいと思っていたので見れて良かった。国の洗脳が効いているうちは「血」が「花」に見えていたけど、解けてからは普通の「血」なのが、国のために死ぬことが美しいと教えられていたんだなと思った。
- ◆おいしくて沖縄に行きたくなった。日常と戦争が常に隣り合わせで、戦時中は当たり前の生活ができていなかったんだなと改めて考えさせられた。
- ◆同世代の子たちが働かされて、「お国のためにやん」とみたいな感じで考えるのも、教育の偏りがあったんだろうし、自決する決断になったのはメンタルもおかしくなっているだろうし、周りに意見を言えないとか周りに合わせようって考えたりして決めたことだろうけど、二度と同じように考えることがないようにしなきゃいけない。